

マンモグラフィ読影体制強化に向けて

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会 鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会

- 日時 平成22年8月21日（土） 午後1時40分～午後3時30分
- 場所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 21人
岡本健対協会長、石黒部会長、工藤委員長
阿部・井奥・大口・大久保・岡田・洞ヶ瀬・小林・田中・
廣岡・藤井・吉田・吉中各委員
オブザーバー：岩船琴浦町健康福祉課課長補佐
県健康政策課：下田副主幹、横井主事
健対協事務局：谷口局長、岩垣係長、田中主任

【概要】

- ・平成21年度対象者数118,676人、受診者数19,278人、受診率16.2%で、平成20年度より受診者数4,654人、受診率3.9ポイントも増加した。平成21年度は、「女性特有のがん検診推進事業」として、40歳以上の5歳刻みの人を対象に検診無料クーポン券が配布されたことにより、受診率向上効果はあったと思われる。
- ・県では鳥取県地域医療再生基金を創設し、がんの読影研修開催にも活用して頂けるよう支援事業を新設した。実施期間は平成22年度～平成25年度までである。「マンモグラフィ検診精度管理中央委員会」との共催の研修会の開催に向け、病院と「乳がん医療機関検診一次検診医登録者」を対象に受講希望調査を行うこととなった。

と思います。

平成21年度の本会議で読影体制の強化のため、読影委員を増やす必要があるとの意見があり、それを受けて、県にお願いして、鳥取県地域医療再生基金を創設し、がんの読影研修開催にも活用して頂けるよう支援事業を新設して頂きました。平成22年度から平成25年度までに実施となっておりますので、研修会開催に向けてご検討願います。

〈石黒部会長〉

マンモグラフィ併用検診が開始され5年経過し、読影体制も整備されつつあります。

受診率が依然として低いこと、要精検率等についてご協議願います。

〈工藤委員長〉

読影委員の強化について、県でも支援を考えて頂いているようです。本日は、そのことについて、ご説明があると思いますので、ご協議願います。

挨拶（要旨）

〈岡本会長〉

マンモグラフィ併用検診が開始され5年経ち、検診がずいぶんスムーズに行われるようになった

報告事項

1. 平成21年度乳がん検診マンモグラフィ読影委員会開催状況について

平成21年度の各地区読影会実施報告は、以下のとおりである。

東部（工藤委員長）－東部医師会館を会場にして、週2回読影会を開催した。計108回開催し、1回の平均読影件数は41件であった。5市町を対象に8医療機関で撮影された写真4,428件の読影を行い、CAT1が3,530件（79.77%）、CAT2が671件（15.16%）、CAT3が205件（4.63%）、CAT4が16件（0.36%）、CAT5が3件（0.07%）であった。比較読影件数は2,263件（51.1%）であった。症例検討会は11月16日と3月1日に開催し、読影委員会は3月29日にそれぞれ開催した。

中部（石黒部会長）－県立厚生病院を会場にして、週1回読影を行った。計40回開催し、1回の平均読影件数は32件であった。4市町を対象に4医療機関で撮影された写真1,266件の読影を行い、CAT1が1,138件（89.89%）、CAT2が45件（3.55%）、CAT3が79件（6.24%）、CAT4が3件（0.24%）、CAT5が0件（0.28%）であった。読影不能が1件あった。比較読影件数は136件（10.7%）であった。症例検討会を3月17日、読影委員会は3月31日にそれぞれ開催した。

西部（石黒部会長）－西部医師会館を会場にして、週2回読影を行い、計51回開催、1回の平均読影件数は34件であった。3市町を対象に1医療機関で撮影された写真1,735件の読影を行い、CAT1が1,315件（75.79%）、CAT2が274件（15.79%）、CAT3が110件（6.34%）、CAT4が6件（0.35%）、CAT5が2件（0.12%）であった。比較読影件数は852件（49.1%）であった。その他は各医療機関で読影をされている。症例検討会を3月25日に開催した。

- ・鳥取県保健事業団実施分の読影結果について、石黒部会長より報告があった。受診者数9,465件、要精検者数622件、要精検率6.57%です。読影委員別の要精検率は、10%を超える委員はいなくなった。
- ・東部、西部の比較読影は約50%であるが、中部は約10%と低い、原因はどこにあるのかという質問があった。原因は特定できないが、各医療機関の写真整理体制の問題もあるのではないかと、同じ医療機関で受診されている人が少ないのではないかとということが考えられる。
- ・中部読影会で読影不能が1件あり、マンモグラフィ撮影機関、受診者に、再度写真撮影をお願いしたが、両者からのご了解が得ることが出来なかった。今後の対応をどのようにしたらいいのかという質問が、洞ヶ瀬委員よりあった。健対協を通して、読影不能の写真用工藤委員長、石黒部会長に見て頂き、最終判断をして頂く。

2. 平成21年度女性特有のがん検診推進事業の実施について：下田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

平成21年度対象者数118,676人、受診者数19,278人、受診率16.2%で、平成20年度より受診者数4,654人、受診率3.9ポイントも増加した。

そのうち、「女性特有のがん検診推進事業」として、40歳以上の5歳刻みの人を対象に検診無料クーポン券が配布された対象者数は20,635人で、受診者数は4,936人で、無料クーポン券が配布された対象者数に対する受診率は23.9%であった。

国がこの事業実施を決定したのが、年度途中の6月だったため、事業の開始が遅くなり、市町村は大変苦労されたが、受診率向上に一定の効果はあったと思われる。

この事業は、平成22年度も継続実施されたが、国が平成23年度以降も継続するかどうかは、現段階では不明である。

3. 鳥取県がん対策推進条例について：下田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

がん対策向上を目的として議員から提案された「鳥取県がん対策推進条例」が6月23日、6月定例県議会本会議において全会一致で可決され、6月29日付けをもって公布された。

都道府県によるがんの条例制定は本県で9例目である。

委員より、県民への周知はどのようにして行われているのかという質問があった。

鳥取県庁ホームページ、広報誌への掲載、9月には新聞広告掲載を行う予定である。また、リーフレットを作成する予定である。

事業者の責務についても記載してあるので、周知する必要があるのではないかと。労働基準局と連携して周知することも検討して頂きたい。全般的に周知の仕方を検討して頂きたいという意見があった。

4. 平成21年度休日がん検診実施状況（集団検診）：下田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

県民が休日にごがん検診を受診できる機会を増やすため、平成21年度より、県は市町村に対し、休日にごがん検診を実施した場合に必要な休日割増し費用を支援する事業を開始した。平成20年度、集団検診において、休日がん検診を実施する市町村は、7市町村であったが、平成21年度は、16市町村に拡大した。平成21年度では、乳がん検診車28台が稼働し、受診者数は延べ943人であった。半日の1台検診車の受診可能人数は35人ぐらいである。県は平成22年度も引き続き支援を行っている。

協議事項

1. 読影委員会整備と東・中・西部の読影件数（能力）分析について

平成22年4月～7月までの鳥取県保健事業団分

の中部地区の読影状況について、大久保委員より説明があった。検診時期が昨年度より早まったこと、「女性特有のがん検診推進事業」の無料クーポン券が配布されたことなどにより読影件数が前年度の同時期より増えているが、中部読影委員会の読影委員が不足しており、東部、西部の読影委員会においても読影をお願いしている。

今後も、中部分を東部、西部の読影委員会で引き続き読影して頂くこととなった。鳥取県保健事業団は、計画的に東部、西部読影委員会にそれぞれ振り分けて頂くよう要望があった。

2. 読影体制の強化について

平成21年8月22日に開催された本会議において、読影体制の強化のため、読影委員を増やす必要があるとの意見があり、それを受けて、県は鳥取県地域医療再生基金を創設し、がんの読影研修開催にも活用して頂ける支援事業を新設した。県から読影体制強化のため、積極的に活用して頂きたいとの提案があった。

実施期間は平成22年度～平成25年度までで、補助基準額は180万円である。

研修会開催は、「マンモグラフィ検診精度管理中央委員会」との共催となり、平成22年度開催は難しい。また、1回の受講者は50名ぐらいであるが、県内で受講を希望する医師がどれくらいいるのか、開催計画を立てる前に、事前調査をとってみてはどうかという意見があった。

協議の結果、平成23年度に研修会を開催する予定とし、病院と「乳がん医療機関検診一次検診医登録者」を対象に受講希望調査を行うこととなった。

乳がん検診従事者講習会及び第18回鳥取県検診発見乳がん症例検討会

日 時 平成22年 8月21日 (土)
午後 4時～午後 5時35分
場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
出席者 71名
(医師：67名、看護師・保健師：3名、
検査技師：1名)

吉中正人先生の司会により進行

講 演

鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会委員長 工藤浩史先生の座長により、総合上飯田第一病院乳腺外科部長 窪田智行先生による「石灰化病変の診断—ステレオ下マンモトーム生検を中

心とした地域連携—」の講演があった。

第18回鳥取県検診発見乳がん症例検討会

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会長 石黒清介先生の司会により3症例を報告して頂き、検討を行った。

- (1) 鳥取県立厚生病院 (1例) : 田中裕子先生
- (2) 鳥取県立中央病院 (1例) : 木村安曇先生
- (3) 鳥大医 器官再生外科学 (1例) :

石黒清介先生

乳がん検診一次検診登録講習

工藤浩史先生を講師として、乳がん検診一次検診登録講習を行った。9名の参加があった。

がん登録精度がさらに向上 (DCN : 18%)

平成22年度がん登録対策専門委員会

- 日 時 平成22年 8月26日 (木) 午後 1時40分～午後 3時15分
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 20人
岸本委員長
吉中・岡田・岩垣・山下・福島・石飛・南崎・藤井・大口・
前田・国政・山根・紀川・尾崎・岡本幹三各委員
県健康政策課：下田副主幹、横井主事
健対協事務局：谷口事務局長、田中主任

挨拶 (要旨)

〈岸本委員長〉

平成19年度「がん対策基本法」が施行され、平成20年度にはがん診療連携拠点病院が指定されたことにより、鳥取県がん登録の精度は大変良くな

り、県内のがん罹患状況がより正確に把握することが出来るようになりました。

これも、鳥取県医師会会員の皆さまのご努力の賜と思っています。県民の健康を守るためには、極めて貴重なデータを提供する活動だと考えております。